

川上ダムに関する意見書

10月17日

淀川流域委員会の皆様へ

どうか折り返しを一番に考えて下さい。私も淀川の最上流に暮らす者として川は全てつながっています。ダム内題により人々が分裂しないよう色々な想いをどうか可能を限りつとつとまとめて下さい。国はいつの時代も上からの一方的な押し付けと決めつけでした。成田空襲しかり原発しかり、そしてダムもしかり、色々いっても仲良く暮らして来た村に人々になんの相談もなく突然決めつけた話を持ってくる。大金が目前にちらつく、今まで助け合いの手をとり合ってきた隣同士が適対しケンカし憎しみ合う。話しを下つて来た役所は高見の見物、下々の人々は苦しみ泣きどうしてか、なんでこんな目に合うのかとあの件がよかつた頃を思い出しては咽び泣く日々こんな日が40年です。40年間川上地区の人々はダム一色で生きて来たんです。なにかいも何度もありました。そして40年目にやっと苦渋の決断をしたんです。たかが紙切れ一枚にサインを打つというその重みはおなたがたにはわかりません。道路もダムが出来たらと40年改修されませんでした。対抗もできない夏は草下道が見えない雨が降れば石が落ちてくるそれでも我慢しろと言われ続けて来た地元民の気持ちもどうか考えて下さい。正直ダムは必要ないかもしれない、それでも科学的だけでなくコトだけではなく、人々の感情と40年という長世の時をどうか想っやって下さい。そしてせめて川上地区があつた地域だけは水没させてあげろ規模のちめ池をつくらせて下さい。縮少しても一日も早い完成と道路の完成はこの地に生まれ生きていく私達の願いです。どうか日本の心「大和」和と調和^{やまと}自然と人々の和を願ひ、円満解決祈り